

(2010年6月)

在南ア日本国大使館

1. 内政関連

●ズマ大統領のスキャンダル再び

3日、ズマ大統領のヌトゥリ第二夫人が大統領以外の男性と関係を持ち、現在妊娠中であるというスキャンダルが報道された。相手はヌトゥリ夫人のボディガードと見られ、スキャンダル公表後自殺を図ったとされている。現在妊娠している子供は大統領の子ではないというのは噂の域を超えないが、ズマ大統領の威信に悪影響を及ぼしている。

●COSATU バビ事務局長への懲罰取り下げ

3日、ANCは、バビCOSATU(労働組合)事務局長への懲罰を検討していたが、これを取り下げることを選定した。バビ事務局長は、シセカ協調統治・伝統業務大臣のCV偽造疑惑やニャンダ通信大臣の公費乱用の件等について、各大臣を名指しで公的に非難した経緯があり、ANC側は事務局長の言動に対し何らかの対策を打つ必要があると考えていた。しかし、全面的にバビ事務局長側にたったCOSATUは懲罰を下す場合はANCとの同盟を考え直すとの構えで攻勢、結局懲罰は取り下げられバビ事務局長はお咎めなしとなった。

●COPE内乱続く

6日、ヨハネスブルグ高等裁判所は、党大会でレコタ氏に下された不信任決議が違法であるという判決を下した。レコタ氏は5月に行われた党大会の後、当不信任決議を不服とし裁判所に差し止め請求を行っていた。今回の裁判所の決定により、レコタ氏はCOPE党首として復職を果たし、裁判所は4ヶ月後に党内選挙を行うよう命令を下した。しかし、その後も党内のごたごたは続いており、20日、ダンダラ同党議会代表は当職を辞職するという書簡を党に送付した。党は辞職に関して話し合いを持つと発表した。

●ワールドカップ開幕

11日、サッカーW杯が開幕した。各国からの選手団、サポーターが試合に合わせて南ア入りし、空港や各都市は通常以上の賑わいとなった。また、FIFA公式テーマソングを歌うシャキーラをはじめとする有名歌手、芸人、各国からの賓客も続々と南ア入り。南アと初戦を争ったカルデロン・メキシコ大統領は、バイデン米副大統領、キバキ・ケニア大統領並びにオディンガ首相、潘基文国連事務総長、ムガベ・ジンバブエ大統領とチャンギライ首相、ミルス・ガーナ大統領、レツィエ三世(レソト)、ムスワティ三世(スワジランド)、ドスサントス・アンゴラ大統領、モラレス大統領等が出席した。バシール・スーダン大統領も参加を希望したが、南アに入国すれば国際刑事裁判所の逮捕状の関係で問題になるので、出席を断念したとの報道もある。この他期間中、英国のウィリアム王子やハリー王子、オランダ、デンマーク等の王族が試合観戦等を目的に訪問した。

●マンデラ元大統領の曾孫、交通事故死

11日、マンデラ元大統領の曾孫、ゼナニ・マンデラが交通事故により死亡した。13歳であった。ゼナニはオランダ・スタジアムで行われたFIFAキック・オフ・コンサートから帰る途中事故にあった。当事故により、マンデラ元大統領の開会式出席を急遽取りやめとなった。

●スタジアム警備ストの影響

15日、南アにある10の競技場のうち、ダーバン、ケープタウン、サッカーシティ(ヨハネスブルグ)、エリスパーク(ヨハネスブルグ)のスタジアムについては、警察当局がスタジアム内の警備に当たる旨が発表された。これまで同4競技場のスタジアム内の警備に

については、「スタリオン・セキュリティ社」が管轄してきたが、同民間警備会社と警備員の間で賃金をめぐり労使間意見対立に折り合いがつかず、急遽警察が警備を行う事態が発生した。この他、電力公社であるエスコムも経営陣・労働者間の賃金交渉が続いており、両者要求を飲まない場合は、W杯の最中であるにもかかわらず、ストに踏み切る可能性が出てきている（その後ストは回避された）。

●青年の日 (Youth Day)

16日は青年の日。1976年6月16日に発生したソウェト蜂起の犠牲者を追悼して、各地で記念集會が開かれた。ズマ大統領はムプランガ州のトゥラマハシェ・スタジアムの青年の日記念集會に参加し、W杯での南アのチーム、バファナ・バファナの健闘を祈り、チームへの支援を呼びかけると共に、若者を激励した。ANC青年同盟は、別途イベントを実施。一方ソウェトでは、ヘクター・ピーターソン博物館で式典が執り行われ、モコヤネ・ハウテン州首相や、ダニー・ジョーダン FIFA・LOC 会長、アモス・マソンド市長等が出席した。

2. 外政関連

●ズマ大統領のインド公式訪問

フランス・アフリカサミットに出席したズマ大統領は、そのまま2日から5日にかけて、インドを公式訪問した。大統領就任以来、アジア訪問は初めて。

南南協力の強化を目的とした今回の訪問でズマ大統領は、インド・南ア CEO フォーラムの再開を祝したキーノート・スピーチで、南南間のビジネス関係強化に尽力する旨を述べた。政府関係者ではパティル大統領並びにシン首相と会談した他、ソニア・ガンディー・ kongress 党党首の表敬を受け、マハトマ・ガンディー・メモリアルに献花した。インド・南ア CEO フォーラムには、南ア側の代表としてモツェペ・アフリカン・レインボー・ミネラルの CEO、インド側代表としてラタン・Tata 代表が参加した。今次訪問にはヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣、ジョーマト＝ピーターソン農業・林業・漁業大臣、ヌ

デベレ運輸大臣が同行し、それぞれ農業関連協力、二国間航空サービスに関わる協定、外務省研修所間の協力の3つの覚書に署名した。

●駐イスラエル・南ア大使の一時召還

1日、イスラエル軍がパレスチナ自治区ガザへの支援船団を襲撃・拿捕し犠牲者が出た事件に関し、ファン・デル・メルヴェ国際関係・協力副大臣は、ヌコアナ＝マシャバネ大臣の代行としてセゲブ・ステインバーグ・イスラエル大使を呼び出し、イスラエル軍による市民への攻撃は受け入れられないとする南ア政府の懸念を伝えた。また、続く3日、エブラヒム国際関係・協力副大臣が記者会見を行い、政府としてイスマイル・クーヴァディア・駐イスラエル南ア大使を南アに一時的に召還することを決定した旨を発表した。与党ANCは、この決定を歓迎する声明を發出している。

●高円宮妃殿下の南アご訪問

21日から25日の御日程で、高円宮妃殿下が南アをご訪問された。孤児院など各地を御訪問、日本・デンマーク戦を御観戦した他、モトランテ副大統領はじめ南ア政府要人や現地在留邦人との交流などを行った。モトランテ副大統領には、日本代表チーム選手が署名し「Mothlanthe」のネームが入った青いサッカージャージが贈呈され、副大統領からはズゼラの贈呈がなされた。

●バイデン米副大統領の南ア訪問

エジプトやケニアを歴訪したバイデン副大統領夫妻は、米サッカー・チームの試合を観戦するために南ア入りし、12日に同副大統領はモトランテ副大統領と会談した。今回の会談はズマ大統領等が米国を訪れた4月以来のハイレベル会談となり、気候変動やハイチ復興問題の他、南アの国内優先課題5分野（教育、健康、地方開発、雇用対策、犯罪対策）についても意見交換が行われ、地域情勢としてソマリア、ジンバブエについても話題が及んだ。

なお、米チームが決勝トーナメントに進出した際にはビル・クリントン元大統領も訪問し、ズマ大統領と会談した。

●ズマ大統領のムコスカ・サミット出席

26日から27日、カナダにおけるG20サミット並びにG8アウトリーチ会合にゴードン財務大臣を伴ってズマ大統領が出席した。ズマ大統領は、アウトリーチ会合では、2002年のアフリカ行動計画に触れつつODAに関するコミットメントの履行を呼びかけ、G20ではビジネス界に向けてアフリカにおける貿易投資の利点を使って欲しい旨述べた。なお、ストゥリ第二夫人浮気疑惑などがメディアで取り扱われている中で、ズマ大統領は娘を帯同して関連イベントに出席した。

●コンゴ（民）独立50周年

29日から30日、モトランテ副大統領は南アを代表してコンゴ（民）独立50周年記念式典に出席、ヌコアナ＝マシャバネ大臣が同行した。南ア政府は、コンゴ（民）政府と2004年に二国間協力の協定を締結しており、定期的に二国間委員会を開催している。南ア政府の発表では、コンゴ（民）情勢は4年前から大きく改善されている旨触れられている。

3. 経済関連

●経常収支

南ア中銀によると南アの経常収支赤字は昨年第4四半期のGDP比2.9%から、今年第1四半期に4.6%へと広がった。外国資本による南アの株式・債券の購入が増えたこと並びに輸出の落ち込みが要因。

●インフレーション

南ア統計局によると、2010年5月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比4.6%と2010年4月の前年同月比4.8%から縮小した。インフレーションは第3四半期に4.4%に達すると予測されている。しかしながら、電力料金と賃金の上昇が第3四半期以降のインフレ要因となりうる。

●製造業生産高

南ア統計局によると、4月の製造業生産高は前年同月比で8.7%増とり、3月の前年同月比6.6%増に続き改善している。製造業10部門のうち6部門で生産水準の改善が見られ、

とくに自動車部品部門の生産は前年比で46%増となった。しかしながら、アナリストは不況時の生産控えの反動にすぎないと警告している。

●消費

南ア中銀によると、今年第1四半期の消費は5.7%増となり、ここ2年で最速の増加となった。2008年なかばの世界不況以降はじめて消費が増加に転じたのは2009年第4半期であったが、同期の増加は1.6%に過ぎなかった。可処分所得も昨年第4四半期の2.3%増から本年第1四半期に5.1%増へと改善した。

●自動車販売

南ア自動車製造業協会によると、国内新車販売台数は5月に前年同月比で35%増加した。低金利と世界不況からの回復が、自動車需要を促進している。しかしながら、電力料金の値上げと新車への炭素税導入計画が、販売台数に悪影響を及ぼすとの見方もある。

●自動車生産奨励スキームと各社の投資

貿易・産業省は次の3年度間に渡り、26.9億ランドを自動車生産奨励スキーム（AIS: Automotive Incentive Scheme）に割り当てることを決定した。自動車製造業協会幹部は、これは他国の奨励スキームに見劣りしないものであり、同期間に150～200億ランドが自動車産業に投資されることになることと述べた。

フォルクスワーゲン南アフリカは、過去4年間の50億ランドの投資に加えて、新規作業施設建設を5億ランドかけて実施することを発表した。自動車生産奨励政策に後押しされたこの投資は自動車産業で最大のものの一つである。デービス貿易・産業大臣は、世界不況以降、BMW、フォード、VWによって、90億ランドが投資されてきたという。

●鉄道

運輸省は、ヨハネスブルグからダーバンまでの高速鉄道ネットワークを含む、国家運輸マスタープランの一部となる7,500億ランドのインフラ整備計画の採択を推進している。同省は高速鉄道の運行を実現するため、従来

のケーブゲージ（狭軌 1067mm）から、標準軌（1435mm）への改軌を検討している。南アは現在、2 万 3 千キロにおよぶケーブゲージの鉄道路線網を持っている。

●独立発電業者

エスコムは初めて独立発電業者、Ipsa が全国送電線網に接続することを認めた。この決定は、民間電力生産者の参入の突破口となると見られている。今回の供給量は少ないものの、エスコムの合意は潜在的な電力供給業者やコジェネレーションを通じた発電の潜在能力を持つ大産業の参入を促すことになる。エスコムは Sasol 及び Tangent Mining との電力購入合意にもこぎつけた。

4. 広報・文化

●サッカー・ワールドカップ開幕

11 日、ワールドカップ開会式がヨハネスブルグのサッカー・シティで開催された。開会式は戦闘機による航空ショーからスタートし、ピッチ上では巨大なフンコロガシの人形が公式球ジャブラニを転がすパフォーマンスや民族衣装をまとった出演者による踊りが披露された。開会式前夜にはキック・オフ・コンサートが開催され、シャキーラ、アリシア・キース等が出演した。F I F A のブラッター会長は、テレビ中継を通じて世界で 300 億人がワールドカップを観戦するであろうと述べた。

●日・南ア交流100周年イベント

5 日、生け花インターナショナル・プレトリア支部元会長であるダニエル・クロフォード女史に対し、文化交流促進の功績を称え、旭日双日章の授章式が実施された。24 日には、高円宮妃殿下の御臨席のもとヨハネスブルグ・ボタニカル・ガーデン及び日本人学校において桜の植樹式を実施し、28 日には、グラハムスタウン・ナショナル・アーツフェスティバルに参加するため南アを訪問した音楽グループ「アガシオ」及び「ミュージック・アンド・リズム」がソウエトの孤児院を訪問し、竹楽器を使ったワークショップを実施した。

2010 年は、1910 年に日本政府がケーブタウン在住のジュリアス・ジェッペ氏を日本国

名誉領事に任命し、日本と南アが公的交流を開始して 100 年目の記念すべき年であり、様々な文化行事が企画・実施されている。8 月末にはスタンダードバンク主催「ジョイ・オブ・ジャズ・フェスティバル」での渡辺貞夫氏コンサート、9 月上旬にはプレトリア国立劇場で開催されるキャピタルアーツ・フェスティバルでの和太鼓及び阿波踊り公演等が予定されている。

5. 警備・治安

● W杯期間中における邦人被害報告

7 月 11 日現在、W杯期間中における邦人被害件数は、強盗 2 件（被害者 3 名）、盗難関連 41 件で推移している。盗難の手口は置引被害が 31 件と最も多く、次いでスリ被害 6 件、詐欺盗 1 件、侵入盗 1 件となっており、スキミング被害も 1 件発生している。身体的被害は幸いにも強盗被害者が転倒させられた際に掌に擦過傷を負った程度で重傷的なものは発生しておらず、また併せて交通人身事故の報告も受けていない。